

## 農村集落部門：柘野区公民館

### (1) むらづくりの主体の概要

- ・ 名称, 所在地: 柘野区公民館, さつま町
- ・ 代表者: 木場 次雄 (こば つぎお) 氏

### (2) むらづくりの主な内容

地区一体となり、話し合い活動を重ねながら策定した「柘野地区地域づくり活性化計画書」を基に、子どもから高齢者まで一緒になって開催する「ひがん花祭り」などの都市農村交流活動の取組を中心として、地域特産物を活用した加工品の開発、伝統芸能の継承や地域ぐるみでの鳥獣被害対策など集落が一体となった共生・協働のむらづくりに取り組んでいる。

## 農村集落の再生

柘野地区は、高齢化や人口減少が進行する中、地区内外の交流人口を拡大し、地域活性化を図るため、平成11年度から「ひがん花まつり」を開催し、約2,000人が来場する「ふるさとのまつり」として定着している。まつりでは、子ども達による地域の説明や若者による伝統芸能の披露により愛郷心の育成につながっている。

また、住民の信仰心と結束力を高める伝統行事「仏飯講」などを地域活性化に活かしながら、共生・協働のむらづくりに取り組んでいる。

## 多様な主体との連携

- ・ 毎年開催される「ひがん花祭り」では、地区内の小学校と連携し、児童による語り部（観光ガイド）を実施することで、地区内外の子ども達との交流を図るとともに、子ども達の愛郷心を育んでいる。  
また、地域の女性組織と連携し、柘野の郷土料理「みそびら」弁当を祭りの参加者へ提供し、郷土料理の情報発信と継承を図っている。
- ・ 高齢化が進む中、後継者の確保や担い手への農地集積を進めるため、行政機関等と連携し、人・農地プランの見直しを進め、農家負担が軽減される基盤整備事業を実施する計画である。
- ・ 地区の児童のスクールバス登校を見送る「あいさつこだま運動」を実施し、地域全体で子ども見守る体制を整備している。

## 新たなむらづくりの形成、むらづくりの維持・発展

### <桑栽培の復活による特産品の開発>

- ・ 途絶えていた桑栽培を復活させ地域特産物とするため、住民有志で「さつま町桑青汁園」を設立。桑茶生産や桑青汁等の加工品の開発・販売に取り組んでいる。

### <新たな農業リーダーの育成>

- ・ 地区で初めてとなる女性農業経営士の認定や新たな認定農業者の誕生等、農業の担い手や今後のリーダーとしての活躍が期待される。

### <鳥獣被害対策への取組>

- ・ 集落ぐるみで鳥獣被害対策に取り組む、集落持ち回りによる柵の管理・点検やアドバイザーを活用した研修会等を実施し、鳥獣を寄せ付けない対策を進めている。

## 今後の展望

- ・ 農家所得向上に向けた高収益作物（さといも）栽培の定着
- ・ 都市農村交流の活性化による交流人口の拡大
- ・ 伝統芸能の継承へ向けた体制づくり
- ・ 小学校跡地を活用した地域活動の実施（さといもの集出荷場としての利用や給食調理室を加工場として活用）
- ・ 地域特産品の開発，販売，販路拡大による地域経済の仕組みづくり（桑・炭）

## ○ 活動状況写真



ひがん花祭りによる地域外との交流



集落ぐるみでの話し合い活動



郷土料理（みそびら）の伝承



伝統芸能（棒踊り）の伝承



桑の葉を活用した特産品の開発



集落ぐるみでの鳥獣被害対策